

事業所名 グループホーム Ring
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成19年 3月30日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 医療経営管理者
資格・経験 特別養護老人ホーム生活相談員、臨床工学技士
B:現職 生活指導員
資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

(1)ホームは幹線道路沿いにあり、民家と隣接した建物の前には整備された庭と畑がある。庭には犬・豚・鶏などが飼われており、周囲の環境と生活感を感じられる。(居間には鳥が飼われている)

(2)代表者自らの介護経験と知識を元に、認知症介護に問題意識と見識を持ち、ホームの運営と介護サービスの向上に取り組んでいる。

(3)認知症介護のサービスの質と水準を維持するためには、福祉事業に対する情熱や思いだけでなく、経営の意識が必要であると考え、経営感覚を意識して取り組んでいる。

(4)職員は優しく「待つ」「見守る」のスタンスで接しており、入居者の表情は明るく穏やかで、ゆったりとした居心地の良い家庭的な雰囲気のあるホーム生活を楽しんでいる。

(5)入居者それぞれが今までの生活スタイルが継続できるように支援しており、ご夫婦の方も2組おられる。また、ホーム内での喫煙・飲酒も自由であり、入居者の自然な暮らしと自主性を大切にしている。

(6)歩いて行ける場所に総合病院があり、しっかりと医療連携が出来ている。平常の健康管理はもとより緊急時の対応も可能で、地域的にも人間的な結びつきもあり、入居者は安心してホーム生活が送れる。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

特に無いが仮に言えば、日常生活用品(台所・洗濯場など)の物品整理整頓がもう少しできれば、効率的な日常業務が今以上に行えるとと思う。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目 グループホームとしてめざしているものは何か(記述)			
<p>代表者の介護経験から、ホームにおいても家での暮らしと同じように穏やかで安らぎを感じ、「普通の生活を送る」ことのできる生活環境や、一人ひとりの人生経験を尊重した生活介護ができることを理念としている。</p> <p>「穏やかで普通の生活環境」作りを目指している。</p> <p>入居者それぞれの自分史・人生観を大切に、家庭からの生活を継続することを念頭に置き、未来を見つめる前向きなホーム生活の実現を目指している。</p>			

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)			
<p>居間・食堂は南側に面しており、陽射しが差し込み開放感がある。1階からはデッキに出ることが可能で、庭や畑、飼育している犬・豚・鶏の様子など農家の庭先を感じることができる生活空間である。</p> <p>介護にあたり、力まず・押し付けることなく、入居者が今までの生活のまま普通に過ごせる介護を目指している。</p> <p>看護師資格を有する職員があり、どんな場合も穏やかに接することができる体制があり、入居者や家族は、安心して暮らせる。</p>			

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人であることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)			
<p>入居者の生活歴・趣味等を詳しく把握し、その能力がホーム生活においても生かせるように配慮している。職員は入居者の能力を発見し、それを助長するように巧みに誘導し、本人の意欲を盛り上げるように取り組んでいる。</p> <p>個室へ入るときは必ずノックをし、本人の了解を得た上で入室している。本人への呼びかけは丁寧であり、人生の先輩として入居者の人格に配慮するようにしている。</p> <p>入居者個人のファイルや記録は整理して管理している。</p>			

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目 サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)			
<p>介護研修や教育講演などに可能な限り参加し、知識、技術の向上に前向きに取り組んでいる。</p> <p>看護師の資格を持つ職員がいることで、看取り介護や日常の健康状態の把握が可能である。</p> <p>より良い介護サービスの基本は、人間としてのふれあいが基本のひとつであり、そのためには介護知識と経験が重要な要素となる。現在は比較的若い職員構成になっているため、今後は若いという事を発展的に捉え、サービス内容向上の契機と捉える事ができる。</p> <p>職員は、一人ひとりの入居者が普通の生活を送らせる環境という理念を忘れない介護を行っている。</p>			